

## 文化の宝庫、山西省

赤松咲

山西省は、四川省や雲南省など、他の有名な省に比べ、外国人にとってあまりなじみのない中国の地名かもしれません。しかし、山西省は知る人ぞ知る文化あふれる地です。山西省出身の明～清初期時代に活躍した書道家、「傅山（ふざん）」をご存知ですか。先日、ある書道美術館が開催した講演にて、彼に関する研究発表が行われました。傅山は書道をする者なら知らない人はいないほど有名な書家で、また書道にあまりなじみのない中国人でも彼の名前を知っています。彼は400年以上前に活躍しましたが、その人気は衰えることを知らず、むしろ増していく一方です。その理由のいくつかを挙げたいと思います。近年の傅山ピークを三つの年代に区分することができます。①1930年代、②1984年、③2007年です。①では、政治的要因が大きく関係しています。中国民族意識向上のために彼の作品が引用されました。傅山の作品内において、彼自身が暗に明時代を懐かしみ、反清活動を行っていたことが理由として挙げられます。②では、彼の作品に関する大規模な資料出版が計画されていたことです。しかし、出版が遅れてしまったり、また傅山に関するテレビドラマが放送禁止となったり、様々な問題が発生してしまいます。これも政治的要因が絡んでいるのですが、ここではあまり多くを述べません。これだけみると、彼の人気の理由が、政治的に利用されたことのみにあると捉えられてしまいそうですが、そうではありません。③では、傅山400周年のシンポジウムが開催されました。傅山に関する研究は、アメリカ、日本、香港など、世界中で行われています。そのため、山西省のみならず、世界中に彼の作品資料が散らばっているのです。また山西省には数多くの貴重な資料が博物館や図書館などに埋まっていますが、その膨大さのために、二次資料まで手が回らないという状態が続いています。それほど、彼の作品に関する見解はまだ未知の領域が多いのです。傅山に限らず、人々を魅了する多くの芸術作品、文化的遺産はまだまだ発見されずに眠っています。多くの研究者たちは私たちの想像を超える未知なる世界を求めて研究を進めています。今回、それを講演にてほんのすこし垣間みただけではありますが、研究者の芸術に対する情熱、数多く眠る文化遺産に対する浪漫が伝わってきました。そして私自身、そんな文化溢れる山西省に留学することのできたこの機会に感謝するばかりです。



講演の様子



中国の伝統楽器である古琴を聴かせて頂きました



本格的な中国茶をごちそうになりました。とても良い香りがしました。